1—53. Ge 及びダイヤモンドに於けるエネルギー禁制帯の温度効果，第二報。　○武藤俊之助，大山精一。第一報で述べた一般式を Ge，Diamond の場合へ適用して数値計算をなした結果を報告する。

1—54. Ni_3 Mn 合金の磁氣餘効と磁否　田岡忠美。Ni_3 Mn 合金の規則格子生成過程に於ける異常な磁氣余効と磁否との関係についての実験結果。

1—55. 鐵の單結晶に於けるバルクハウゼン効果について　龜井享。鉄の單結晶に連続的に増減する荷重を加えた時のバルクハウゼン效果をブラウン管で觀測し寫眞にとつて調べた結果に就て報告する。

1—56. 逆 Wiedemann 効果について　木村練一，○大山哲雄，石川昌勝。縦電流に 400～の交流電流を重ねた場合縦磁化の変化がどの様に遅れを示すかを軟鉄管について測定したので報告する。

1—57. 强磁性体棒に勵起させた强制振動の共鳴曲線測定について　○桑島達，能勢宏。鉄の單結棒に磁歪現象を利用して励起させた場合の强制振動の模樣を明かにする爲に共鳴曲線を直視する回路を設計した。

閉會の辞　　所長　武藤俊之助

第 2 会 場

(11 月 9 日，木) 9 時—12 時

2—1. 土壤水の熱力學的性質について　高木俊介。土壤水に対して熱力学的考察を施し実験装置を試作した。

2—2. 土の突固め試験について（第5報）　久野悟郎。本年夏，広島縣，山口縣の国道中，9 地点の路盤の土について行つた試験結果を報告する。

2—3. 土の突固め試驗について（第6報）　久野悟郎。突固つた土について，CBR test に準じた方法により soaking 後の狀態を觀察し，soaking 前の性質との比較を行つた。

2—4. 電氣傳導度に依る土の締固め程度の迅速判定法（第2報）　渡辺隆。ローラーに依る展圧效果を土の電氣傳導度に依り判定する方法を前回報告したが，今回はその後の実驗結果及び考察について報告する。

2—5. 粉体の圓筒壓搾に就て　森芳郎。円筒に塡めた粉体を圧搾する場合に就て，ピストンに加える力と円筒底面に働く力との関係を表わす理論式及び実驗結果に就て述べる。

2—6. 土の振動実驗　最上武雄，○久保浩一。砂粒等の振動実驗の其の後の経過を報告する。

2—7. 土の均等性について　最上武雄。土の含水量，間隙の不均等が力学的性質と関係があると思われる。この事について研究した結果をのべる。

2—8. 粒子の力学（第2報）　最上武雄。さきに発表した粒子の力学の誤りの訂正並に其後研究した結果について述べる。

2—9. 砂粒の動き始めについて　河村龍馬。砂面の上を流体が運動する時流体の速度が或限度を超すと砂粒が動く各種の砂粒についてこの点についての実験結果を示す。

2—10. 飛砂の初期の條件　河田三治。飛砂の始まる風速に就いて，各地の実験を基として論ずる。

2—11. 斜面における滲透と流出について　内田茂男。斜面からの雨水等の滲入と表面を薄層をなして流れる理想化した流出について簡單な解析を行い実験結果と比較した。

2—12. 滲入面を有する滲透流の解について　内田茂男。外部から水が滲入する場合の滲透流に関する嚴密な解を得た。梯形断面の二つの計算例と共に解の一般的な形を報告する。

13 時 — 14 時

2—13. 圓柱を過ぎる viscous shear flow　川口光年。Stokes の方程式を用いて円柱を過ぎる shear flow を取扱い，Stokes の近似では揚力が生じないことを確めた。

2—14. 圓柱を過ぎる不連續流　川口光年。境界層の理論と不連続流の理論を用いて，円柱を過ぎる流れを研究し，剝離角が 58° の近傍になることを出した。

2—15. 二次元衝擊波の形狀　河村龍馬。特性曲線の方法を使えば物体の前端或は後端から出る衝撃波の形を決定することが出來る。一，二の計算例を示す。

2—16. M^2 展開法について　今井功。任意翼型のまわりの高速氣流を取扱う方法として，Poggi の方法に基づく Kaplan，友近，玉田等の方法があるが，これらは著者がさきに発表した方法と同等であることを述べる。

2—17. 翼列に対する M^2 展開法の應用　今井功。任意断面形の翼列を過ぎる高速氣流を取扱うために M^2 展開法を應用する。翼型表面の速度分布を與える一般的な解析式を導く。特別な場合として平行壁の間に対称物体をおくときの流れも取扱われる。

This document is provided by JAXA.